

参考文献リスト(6-5 気候変動によるスイートピーへの影響調査)

No.	著者(公表年)、文献名、学術誌名、巻(号)、ページ	概要	URL
1	井上知昭(2007年)、スイートピーをつくりこなす、書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・スイートピーの生態的特性と栽培の課題 ・生育の特徴と発育相 ・生育・開花調節の基本技術 ・主な作型と栽培管理の実際 ・土壌管理と連作障害対策 ・病害虫と防除のポイント ・品種の特性と改良可能性 	
2	井上知昭、鈴木重俊、小池安比古、杉山祥世、三浦泰昌、五十嵐大造、鈴木邦彦(2002年)、人工光における光強度がスイートピーの落らいに及ぼす影響、園学雑71別2	スイートピーは曇天日が続くと落蕾が生じる。人口光における光強度と落蕾との関係を高夜温15℃と低夜温5℃で実験した結果を示している。	
3	井上知昭、樋口春三(1990年)、栽植密度とかん水量がスイートピー切花の収量・品質に及ぼす影響、園学雑59別2	開花期の温度管理は夜温5℃で収量と切花品質が良い。夜温5℃で栽培し、寄植せ本数、株間並びにかん水量が収量と切花品質に及ぼす影響を調べたもの。	
4	井上知昭、小池安比古、杉山祥世、高橋 貴、三浦泰昌、鈴木重俊(2000年)、矯性スイートピー品種の開花の早晚性、施肥量ならびに光強度が生育開花に及ぼす影響、園学雑69別2	高性品種の開花の早晚性と種子春化、日長の関係について、矯性品種では不明な点が多い。そこで開花の早晚性、培地量、施肥量ならびに光強度と生育開花の関係について調査した結果を示している。	
5	井上知昭、樋口春三(1988年)、気温並びに地温がスイートピーの生育開花に及ぼす影響、園学要旨、昭和63秋	スイートピーは栽培上、温度管理が重要とみられる。そこで、気温ならびに地温が生育開花に及ぼす影響を調査した。	
6	井上知昭、柳島美恵子、五十嵐大造、鈴木邦彦、柳下良美、中村 薫(2005年)、スイートピー切り花の花弁糖度とつる下げとの関係、園学雑74別2	スイートピーは収穫終了時には茎長が4m以上に伸長するため、1作あたり3回程度のつる下げをおこなう。しかし、つる下げ後には切り花品質が低下するといわれている。そこでデジタル糖度計を利用してつる下げが切り花の花弁糖度に影響するかを調査した結果を示している。	
7	杉田浩一、黒木正晶、三浦猛夫(2000年)、スイートピー栽培の作畦栽培と不作畦栽培の比較、九州農業研究(九農研)第62号	スイートピーの収量、品質向上および省力化を目的に不作畦栽培について実験をおこなった結果を示している。	
8	井上知昭、井上喜雄、鈴木昌一、樋口春三(1986年)、スイートピーの開花の早晚性と日長反応性、園学要旨、昭61春	スイートピーには冬咲き、春咲き、夏咲き系品種がある。これらの系統に属する品種について長日処理が開花に及ぼす影響を調査したもの。	
9	礼竺高志、林孝洋、矢澤進(1997年)、スイートピーにおける花序の発達特性と落蕾及び花序のアポーションとの関係、園学雑66別2	花序における小花数の変動パターンには品種間差異がある。これらの品種間には、落蕾および花序のアポーションに関する相違も認められる。そこで小花数安定、アポート型の“アーリーラベンダー”と小花数変動・落蕾型品種の“アーリーピンク”について花序発達特性を調べ、落蕾、アポーションおよび小花数の安定性との関係について考察した。	

10	山下一男、中岡直士、中村 薫、鳥原 亮(2013年)、スイートピーの品質向上を目的としたLED補光技術の研究、宮崎県工業技術センター・宮崎県食品開発センター研究報告	スイートピーは、曇雨天が続くと蕾が落ちる「落蕾」を生じる性質を持ち、落蕾が発生すると、切り花としての品質が低下するとともに生産量が減少するため、この落蕾の克服がスイートピー生産における長年の課題となっている。そこで、スイートピーの落蕾の抑制を目的としてLEDを用いた補光実験に取り組み、小型のLED器具による補光が落蕾の発生および切り花品質に及ぼす影響について検証した。	https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010891579.pdf
11	大川清、石原義啓、兵藤宏、狩野敦(1991年)、スイートピーの落らいに及ぼすエチレンの影響、園学雑60(2)	スイートピーの生育中の花らいにエチレンの作用に拮抗するチオ硫酸銀を散布すると顕著に落蕾を防止できることから、落蕾に内生エチレンが関与していることが示唆されている。そこで冬咲きスイートピーの落蕾に植物の生成する内生エチレンが関与するための実験をおこなった結果を示している。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjs1925/60/2/60_2_405/_pdf/-char/ja
12	宮崎県総合農業試験場(2017年)、総合農試だより第176号	スイートピーでは、養分バランスの乱れによる生理障害等の発生が多く見られるが、その原因の一つとして、診断に基づく施肥改善が不十分なことが考えられる。そこで、土壌健全化のための施肥改善に向けた意識啓発の一層の浸透を目的に、県内の主要産地の代表的な農家の土壌養分の実態を調査した。	https://www.pref.miyazaki.lg.jp/sogonogyoshikenjo/shigoto/nogyo/paper/noushidayori/documents/37141_20180530153921-1.pdf
13	(株)大田花き 品質カイゼン室、品質カイゼン室の花のソコが知りたい！スイートピー編	落蕾は日射量が少ない日から3日後に激しく起こる。花蕾が正常に発達するには比較的低照度で良いが、一日数時間以上の日照が連続することが必要であると言われている。スイートピーは日射量・日照時間が不足すると光合成が足りず、そのため蕾に届けられる栄養が減少し、落蕾・落花する。	https://www2015.otakaki.co.jp/s/qc/life/20150120.pdf
14	森義雄、粒生直義、安場健一郎、後藤丹十郎(2017年)、夜間冷房時の温度がスイートピーの落蕾に及ぼす影響	スイートピーの落蕾抑制を目的に、2品種に対して、ヒートポンプを用いた夜間冷房を行い、夜間冷房時の温度が落蕾に及ぼす影響を検討した結果を示している。調査の結果、夜間冷房による落蕾抑制は可能であり、冷房温度は13℃より8℃の方が効果的と考えられた。	https://smart.uecs.org/results/r6.pdf